

武道の極意！ 努力が才能を超える！！

中年の星 (ピカピカ) 46歳 相良典隆 (鹿児島曾於クラブ長)

福島良菜 (全日本大会蹴武型3連覇) を破り悲願の A 級蹴武型初優勝！！



2022年8月28日 (日) 第13回九州テコンドー選手権大会 (兼第13回福岡県テコンドー選手権大会)  
A 級蹴武型において相良典隆 (九州テコンドー連盟技術部長) が悲願の初優勝を果たしました。

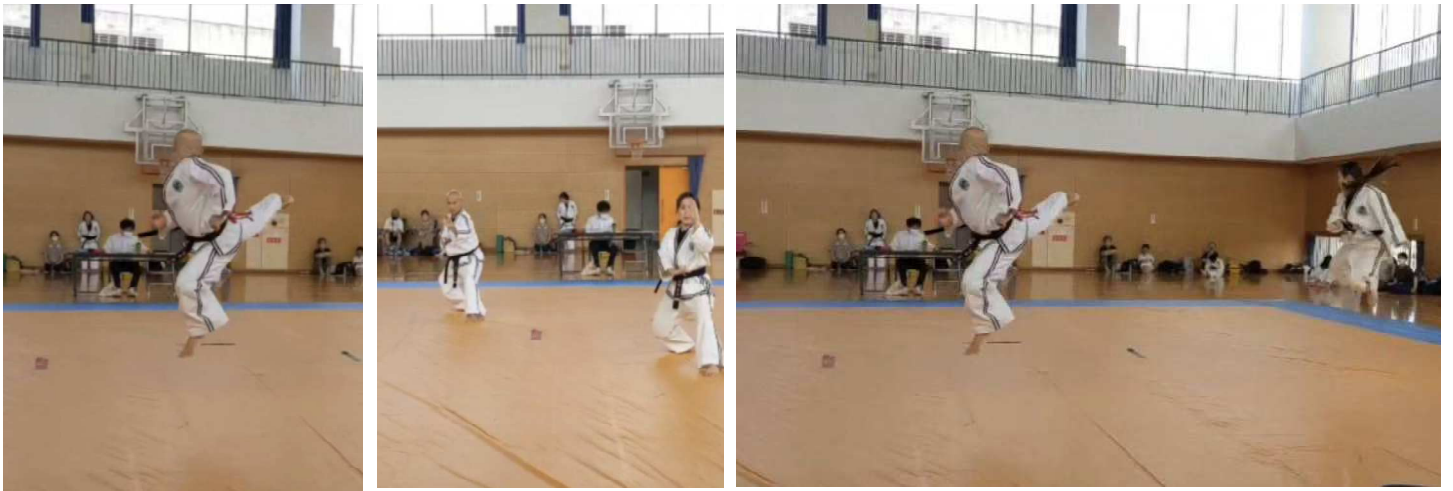
九州大会 A 級蹴武型は、熊本から福島良菜、東京から西谷信一郎、名古屋から伊藤岳陽、鹿児島から相良典隆  
が参戦。2カ月後に開催される第33回全日本 FT 大会同等記録会 A 級蹴武型の前哨戦と言える激戦でした。

決勝戦に勝ち残ったのは福島良菜と相良典隆。

初めに自由型が演武され、福島に旗2本があがりました。

指定型は乙支 (ウルチ)。

通常、自由型で勝利した選手が指定型でも勝利し2連勝・完勝することがほとんど。



しかし、おそらくJTA史上初となるであろう大逆転劇が起こりました。

相良に旗3本があがったのです。

疫病禍前の3年間、不敗だった福島が、一度も優勝経験の無い46歳の選手に敗れるとは誰も予想していませんでした。

#### 河 明生会長談

「正直、福島良菜の調子も悪くなく、予選会に積極的に参加してきた西谷も参戦し、相良が両者に競り勝って優勝するとは思っていませんでした。

もしかすると、相良は、生涯最高の蹴武型・乙支を演武したのかも知れません。

相良の演武は輝いてました（当然、頭も）

ふと、6年以上前、福島良菜が初優勝した際の決勝戦自由型・張良を思い出しました。

福島も後楽園ホールのリング上で輝いていたからです。

あの時も、中学生の福島が優勝するとは誰も思っていなかったからです。

「光り輝く無心の演武」は我が記憶として鮮明に覚えています。

今回の相良の決勝戦指定型も、福島同様「光り輝く無心の演武」だったと思います（頭上は常にピカピカ）。

やはり武道は、たゆまぬ努力が才能を超えるのです。

これが努力しても才能には絶対勝てない球技との決定的な差異です。

相良は、努力家です。しかも日本有数のテコンドー・オタクです。  
あの外見からは想像もつきませんが教頭（鹿児島大卒）の資格を有する美術教員です。  
優秀な教師のため鹿児島県のモデル校に栄転し、日々激務の渦中にあります。  
加えて曾於から鹿児島市迄の通勤時間往復4時間以上。  
普通なら仕事を終えた後は心身ともに疲れ果て家に帰ったら寝るでしょう。

しかし、相良は、退勤後、鹿児島市テコンドークラブや国分テコンドークラブの練習に欠かさず参加し、土曜日は曾於テコンドークラブでの指導後、日々研鑽を怠りませんでした。  
（相良には、小学生の子女がおり、教員の妻に負担がかかるため練習を減らせと論していた）  
そのたゆまぬ努力の結果が、今回の優勝につながったと思われます。

加齢による老化に悩んでいる40代以上の諸君！ 相良に続け！！  
46歳の相良は、たゆまぬ持続的努力で、20歳の若き王者に勝利した。  
相良に出来て君に出来ないわけがない！ 生ある限り少年の心を忘れず頑張ろうではないかっ！」